いわた
文化財だより 第183号
磐田市教育委員会教育部文化財課　令和２年６月１日発行

目　次

■ここまでわかった見付の「くら」　・・・　P1～2
■文化財課刊行物紹介
　いわた　ふるさと散歩　北部編　・・・・　P3
■WEBで文化財だよりを楽しもう！　・・・・　P4
■コラム『天目茶碗』大村至広　・・・・・・・　P4

ここまでわかった 見付の「くら」

磐田文庫（土蔵）

見付地区は昭和 48 年から計画された東海道（見付本通り）の拡幅工事により変貌をとげましたが、現在も 50 以上の蔵が残されています。これらの蔵は明治以降の見付を知る貴重な資料と言えます。

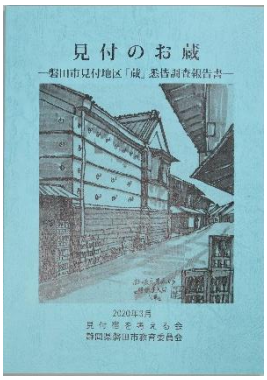
池田近道（姫街道）入口付近の蔵
スケッチ　寺田伊勢男氏

江戸時代の東海道の宿場として繁栄した見付は、明治時代になっても中遠地域をリードしてきました。見付には街道に沿って多くの商屋が立ち並び、その奥には多くの蔵がありました。この多くが東海道本線の開通後、近代化が急速に進んだ明治時代のもので、宿場町の骨格を残しながらも近代見付の町が形成されたことを物語っています。

近代見付の様相を解き明かすため、「見付宿を考える会」が中心となって蔵の調査をおこないました。この調査に磐田市教育委員会や専門の知識を持つ研究者も加わり、令和２年３月に報告書として刊行することができました。今回は「見付のお蔵」についてご紹介します。

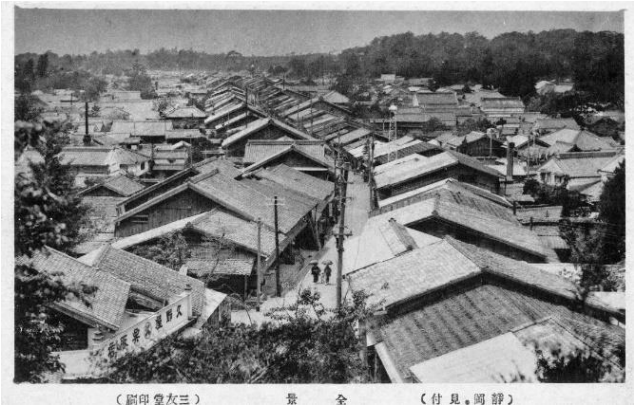
ぜひお手元に！　刊行した報告書は市内の図書館で借りることができます。もっと詳しく知りたい方、もっと読みたい方、どうしても必要な方には報告書を販売しています。埋蔵文化財センターへお越しください。

Ａ４版　本文 196 ページ、巻頭カラー図版付き
配布価格　2,000 円
販売場所　磐田市埋蔵文化財センター



文化財課職員Ｍ

明治の見付　江戸時代の宿場町「見付」には、明治以降も周辺地区から人や物資が集まり、大いに賑わっていました。近隣で栽培された煙草葉や茶などの生産・加工、江戸時代から続く醸造などの産業のほか、県内に先駆けて銀行への出資も盛んに行われました。見付では火災も多発したことから家財道具や商品を収納するための蔵、味噌（みそ）や酒類を醸造した蔵が造られるようになりました。



明治時代の見付（絵葉書より）

お蔵の種類　見付地区に残る蔵は、土壁の白漆喰（しっくい）で塗った土蔵、煉瓦（れんが）を積み上げた煉瓦蔵、切石を積む石蔵、三和土（たたき）の技法を応用した三和土ブロック蔵の４種類に大別することができます。このうち三和土ブロック蔵は市内にしかありません。

石を使った蔵　蔵の中には切石を積み上げたものや、腰（下半部）やコーナーに石を用いたものがあります。天竜川下流域（市内掛塚など）では伊豆石を用いた蔵が多く見られますが、見付では下部に石、上部に土蔵を使った蔵が見られます。石と漆喰の組合せは、見付の蔵の特徴の一つで、外壁の美しさを強調させています。

伊豆石を使った石蔵

腰（下半部）に石を使った土蔵

コーナーに石を使った土蔵

煉瓦を使った蔵　鉄道（東海道線）建設のため見付・中泉に煉瓦工場が開設されると、この煉瓦を使った建物や塀も造られるようになりました。煉瓦を積み上げた「煉瓦蔵」や壁に煉瓦を貼った土蔵があります。

壁に煉瓦を使った土蔵と門（旧赤松家）

煉瓦蔵と煉瓦の塀

三和土ブロック蔵

ここにしかない三和土ブロック蔵　三和土は土と石灰を混ぜ込んでたたき固めたもので、コンクリートが普及するまで、井戸枠や建物の基礎、塀等に使われました。三和土ブロックは遠州地方で工夫された製品ですが、詳しいことはわかっていません。見付では蔵のほか、建物の基礎、塀などにも使われました。

文化財課刊行物紹介

いわた ふるさと散歩 北部編

このたび、『いわた　ふるさと散歩　北部編』をリニューアルしました。『ふるさと散歩』は、地域の歴史や文化財などを写真を交えわかりやすく紹介しているパンフレットです。ぜひ、ご覧ください。

配架場所：磐田市埋蔵文化財センター
磐田市見付 3678-1　8:30～17:15
（磐田市観光案内所、磐田市情報館、市政情報コーナーは順次配架します）
※新型コロナウイルスの影響により、開館時間を変更している場合があります。施設の開館状況につきましては、各ホームページをご確認ください。

文化財課職員Ｓ

リニューアルで新たに追加した内容を紹介します！

地図情報を追加

これまで表示していた情報に遺跡や古墳群の範囲を追加しました。また、古墳や石碑、秋葉灯籠などをイラストで表し、磐田北部にある文化財を視覚的にわかりやすく表現しました。

長者屋敷遺跡周辺の地図を追加

磐田原台地西縁には多くの古墳・遺跡が造られました。中でも国や県の指定史跡が集まる長者屋敷周辺の地図を新たに追加しました。

民俗行事も追加

岩井にある鹿島神社に奉納される「たたきごぼう」を追加しました。たたきごぼうは、800 年以上前から伝わると言われている無病息災を願う伝統行事です。

そのほか、新たに大藤交流センターの敷地内にある水の碑と大藤村道路元標、江戸時代に作られた三右衛門堤、向笠・岩田地区の旗本支配と旗本陣屋についてなどを写真と共に紹介しています。リニューアルしてより内容が充実したふるさと散歩北部編をぜひ手に取ってお楽しみください。

磐田市ホームページで公開中

WEB で文化財だよりを楽しもう！

ご自宅でいわた文化財だよりを楽しんでみませんか。市ホームページでは、最新号のほかバックナンバーも公開しています。バックナンバーの閲覧方法と、これまでに発行した文化財だよりの中から今月のお勧めをご紹介します！

いわた
文化財だより 第125号

家康と磐田 近世磐田の礎を探る

●閲覧方法●

磐田市ホームページトップページ内のページ番号検索に 1007901 を入力して検索後、いわた文化財だよりのバックナンバーの一覧ページから閲覧したい号数をダブルクリックしてください。

●今月のお勧め●

磐田駅南口近くにある御殿遺跡公園に、今年の大河ドラマにも出ている徳川家康の像があるのをご存知でしょうか。何故磐田に家康像が？家康と磐田の関係、近世の磐田の礎を知ることが出来る特集「家康と磐田」を掲載した第 125 号と第 128 号をぜひお読みください。

職員リレーコラム　天目茶碗

大村　至広

八十八夜が過ぎ、今年も新茶の美味しい季節になった。磐田での茶の栽培が本格化するのは近代以降のことだが、それより前にも茶は飲まれていた。その証拠のひとつとなるものに遺跡から出土する天目茶碗がある。現在日常的に飲むお茶といえば煎茶で、湯呑茶碗を使うことが多いが、天目茶碗で飲まれていたのは抹茶である。

坊中遺跡出土　天目茶碗

元々は鎌倉時代に中国からもたらされた舶来品であったが、14 世紀ごろから瀬戸窯（せとよう）で模倣品の生産が始まり、県内では志戸呂（しとろ）（島田市）や初山（しょざん）（浜松市北区）でも国産品が製造された。多くは黒色の釉薬が施されている。

中近世の遺跡から出土する天目茶碗は大部分が国内産で、完形のものは少ない。今年３月にオープンしたＪＲ御厨駅の南側で、かつて行った坊中（ぼうじゅう）遺跡の発掘調査でも天目茶碗の破片が出土した。小破片であっても喫茶の痕跡を知ることができよう。

たまには気に入った器で茶を喫してみようか…。

編集後記

６月は、涼風の待たれる月ということで『風待月』ともいうそうです。これを書いている今もじめじめと…。体調をくずされないよう、どうぞご自愛ください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB 版は市 HP から閲覧できます。磐田市 文化財だより 検索